

各地での会員拡大

入会案内を作成

山梨

山梨県医師・歯科医師の会では、「入会のお祝い」を作成しました(写真)。「入会のお祝い」では「入会のおすすめ」「反核医師の会とは」「こんな活動をしていきます」「規約」などを掲載しています。

新年会で三人の先生方が入会

北海道

核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会では、毎年新年会を開いて、親睦を深めています。一月十三日、約十名が参加した新年会の席で、「財政的に支えるためにも、全国の会への入会をお願いしたい」と訴えたところ、その場で三名の先生方が入会してくることにになりました。

もに、会員に十部ずつ配布し、まわりに広げるよう呼びかけています。

「原子力空母 首都圏母港化の危険性」について学習

東京反核医師の会が 定時総会を開催

東京反核医師の会は、二月十七日(土)〇七年定時総会・記念講演を開催した。出席者は医師など十五名。総会では、渡辺良明代表委員は開会挨拶のあと、土岐昌弘運営委員から〇六年度の活動報告・会計報告と〇七年度の活動方針・予算案などの提案があり承認された。特別議題として、向山新代表委員から①一月四日付ウォール・ストリート・ジャーナルの四人の論説について、②インドの核保有容認問題について、③原爆症認定集団訴訟についての三点が提案され、協議した。記念講演では呉東正彦弁護士(原子力空母の横須賀母港

問題を考える市民の会 共同代表)を招き、「原子力空母 首都圏母港化の危険性」を開催した。

はまず、不安だという気持ちで市民の中にあつた。また、賛成でも反対でも自分たちで決めたいという思いが運動を盛り上げた。自衛隊員やその家族、関係者なども横須賀には多く、協議の場を設けると組織動員してきて原子力空母の配備に賛成意見を行ったりしたこともあつた。そういう壁も乗り越えて住民投票をしようという四万人の署名を集めることができた。

活発な質疑応答に回答いただいたあと、原子力空母問題は地元自治体である横須賀市長が濼濼を許可するかどうか、が天王山だと話した。濼濼を押し留めるために、水質汚染など基地周辺の環境が悪化していることを証明する作業が効果があり、神奈川県保険医協会の公害環境対策部などに協力いただいていることは大きい。市民の健康と安全のために運動を盛り上げていきたい、医師の協力も非常に重要だとよびかけた。



また、不安だという気持ちで市民の中にあつた。また、賛成でも反対でも自分たちで決めたいという思いが運動を盛り上げた。自衛隊員やその家族、関係者なども横須賀には多く、協議の場を設けると組織動員してきて原子力空母の配備に賛成意見を行ったりしたこともあつた。そういう壁も乗り越えて住民投票をしようという四万人の署名を集めることができた。

書評

戦争に反対しながら、心のどこかで「戦争なんて、なくならない」と思っていないだろうか。著者は「今すぐには無理だけど、数十年先には戦争の無い世界が実現できる」と断言。十年毎の目標を掲げ、過去に市民が非暴力で勝ち取った成果と著者が自身の運動の中で得た貴重な体験から、戦争の無い世界が夢でないことを力説する。

紛争への非暴力的介入は理想的だが、誰しもが紛争地へ行けるわけではない。では、何ができるのだろうか? 著者は言う「でも、彼らを支援することはできるでしょう」、「お金を出してあげよう!」、「彼らの活動を人に伝えよう」と。

「Enough Blood Shed」

もう、血は流さないで—暴力、テロ、戦争をなくするための101の解決法—

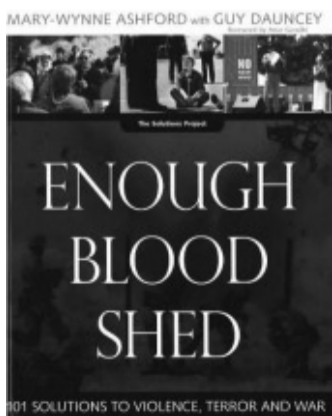
メアリー・ウイン・アシュフォード著

教問題は表面的な原因とし、その根源に迫る。さらに、現在ある温暖化などのあらゆる地球的問題の解決のために「戦争を止めると声をあげよう」と提起する。著者が教えるゼミの不良学生が、地球問題の解決は「他人を思いやること」「全ての生き物を思いやること」「破壊と捨てることを止めること」「活動を止める前に考え、そして行動すること」という結論に至った話もおもしろい。

著者はIPPNWの元会長で、今も中心的メンバーとして活躍中である。彼女が今までの活動で得た全てを次の世代に伝えたいという熱意が伝わる。しかも、「私でも素晴らしいことができるのだ」という気にさせてくれる、元氣の出る本である。

本書は各項目が二頁ずつ独立しており、非常に読みやすい。論旨と文体は明快で、英語が苦手な方でも辞書を片手に気軽に読める。

(和歌山 松井和夫)



価格: 25US\$ (アマゾンで送料込み 2,500円前後) 271ページ 出版社: New Society Pub(2006/06) 購入は、amazon.comのホームページ上より

今こそ言っておかねば

武居 洋 (常任世話人)

1 「ああ美しい日本の旗は」

安倍新内閣の政治手法は、これまでの代々の内閣と何がちがっていると感ぜざるを得ない。安倍首相が就任早々掲げた「美しい国づくり」というキャッチフレーズは私にはまず唐突に響いた。次の瞬間脳裏に浮かんだのは「ああ美しい日本の旗は」という一九四〇年尋常高等小学校入学当時の文部省



唱歌の一節であった。当時の国策は国民に愛国主義教育を徹底させ、侵略戦争に駆り立てようとするものであった。

2 愛国心とは画一的に強制すべきものか?

愛国心とは一斉に号令をか

けて植えつけるべきものであろうか? 子供達一人一人が個性豊かに、独創的に発想し、それぞれに国を思う心を抱けば、それが一番よいのではなからうか? 今度の教基法の中に、あえて「国を愛する態

3 文科大臣の問題発言

「日本人が持っていた『規範意識』を大切に」「悠久の歴史の中で、日本は日本人がずっと治めてきた」「人権は尊重しすぎたら人権メタポリ

クク症候群になる」などの反動的な発言には唯々あきれるばかりである。こんどの内閣の閣僚の中には「日本会議」なる極右組織に属する閣僚が自民十六人の閣僚中十一人いると言う。

4 「美しい国づくり」ではなく「平和な国づくり」を

安倍首相は就任早々、改憲と日米同盟のさらなる強化を打ち出している。加えて米国の意向を受けて、「テロとの戦い」を目標に集団的自衛権の行使や、「国家安全保障会議」(NSC)に手を付けようと言っている。首相が「戦後レジームからの脱却」を唱え、

戦後六十年余の長きにわたり築きあげてきた民主主義・平和国家の時代を否定しようとし、古い伝統と文化の尊重をあえて推し進めようとする政治姿勢は受け入れ難いものである。

著者の医学研究テーマでもある戦争の原因について、民族問題や宗

核兵器のない、平和な世界のために あなたの知識と力を



代表世話人 児嶋 徹

核戦争に反対する医師の会

反核医師の会 ニュース

第35号

2007年3月31日

核戦争に反対する医師の会事務局
〒105 東京都港区芝浦4-1-1
反核医師の会 全国協議会事務局
電話 03-5561-0117 FAX 03-5561-0198
e-mail: pan-nucleo@net.or.jp
http://n-nuses.com/net/or/

「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」が結成され二十年を迎えました。この間、唯一の被爆国の医師として、新しい未来を切り開く反核・平和の運動の先頭に立たれた「つどい」の代表世話人、常任世話人であられた桐島・河野・松島・安賀・和泉先生が逝去されています。改めて、心から哀悼の意を表すとともに、先人達の活動に学び、一層の奮闘を誓うものです。

一九六〇年から七〇年代、核超大国であった米・ソをはじめとして、核弾頭の備蓄、当時年平均二十七回といわれるくり返される核実験、核戦争の危機が高まるといふ国際情勢を背景に、米・ソの著名な医師が一九八〇年、ジュネーブに集い、この危機に立ち向かうべく医師の役割を果たすことを合意、一九八一年に核戦争防止国際医師会議（I P P N W）が結成され、第一回世界大会がボストンで開催されました。

医師の会」との矛盾があり、積極的連携をとるには至りませんでした。国内で、一九八六年「非核の政府を求めるとの会」が誕生し、その中でも「被爆国の医師・医学者の責務として核兵器廃絶を緊急の課題」として取り組む全国組織の必要性が強調されています。

一九八七年二月、I P P N W は、第一回アジア・太平洋地域会議をニュージブランドで開催するにあたり、日本の医師達の積極的参加の期待が表明されたこともあいまって、日本における「反核医師の会」結成の準備の一環として全国から三十五名の医師が参加しました。この年の五月、モスクワで開催された第七回I P P N W世界大会で運動方針の基軸に「核兵器廃絶」が確立され、それまで日本の医師達が訴え続けていた運動理念が「What we believe」に明確にされ、画期的な大会となりました。一九八七年八月「第一回つどい」が開催され、全国組織として、第一歩を記したのです。今日まで、I P P N W世界大会、地域会議に参加、九月に京都で開催予定の「つどい」は第十八回になります。

これまで国内外の沢山の講師が、学びながら核兵器のない世界をめざす私たちの運動に共鳴され参加していただいています。日常的に被爆者医療を真摯に取り組みながら、反核・平和をめざす世界の医師たちや世界のヒバクシャと連帯、核兵器廃絶をめざすすべての組織と共同して、未来を担う子供たちに核兵器のない地球を残さなくてはなりません！ 今、世界に誇れる平和憲法九条を変え、アメリカの戦

今年は9月23～24日に京都で開催

20周年を迎える反核医師・医学者のつどい

第十八回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」の実行委員会が発足した。昨年の第十七回つどいにおいて、「近畿で開催する」という確認にもとづき、昨年十二月に準備会、今年一月に実行委員会を開催した。実行委員会は、近畿二府四県から、役員、事務局らが参加し、この間の経過などを報告し、今回のつどいの日程、会場、目的、企



全国から160名の医師らが参加し熱心な討論がおこなわれた（昨年横須賀で開催された「つどい」の様と「軍港めぐり」）

「日本には、憲法九条を輸出してもらいたいものだ」オーストラリアの医師の言葉を思い起こしながら、憲法九条を守るたたかいかも強めていきたいと思います。現在、全国二高裁、十七地裁で、二百二十九人の被爆者と遺族の皆さんが原告となつて「原爆症認定集団訴訟」が闘われています。二十六万の被爆者のうち原爆症と認定されているのは一%未満に過ぎません。被爆者の平均年齢は七十五歳です。多くの病気を抱えている被爆者は必死にたたかっています。このたたかいに医師たちも専門的立場から多大な力を発揮しています。

私達の組織は、情勢にふさわしい飛躍をめざし、「申し合われたい」平和な世界を子供たちに残すためにもあなたの知識と力を！

今こそ被爆者救済、認定行政の転換を

大阪、広島、名古屋に続き

国の原爆症認定行政を厳しく批判

仙台、東京地裁判決で

原爆症認定集団訴訟の判決が二十日に仙台地裁で、二十二日に東京地裁でおこなわれた。仙台地裁では原告二名に対する却下処分を取り消し、東京地裁では原告三十人のうち二十一人の却下処分の取り消しを命じ、残る九人については、

被爆地に入ったのが十三日たっているなどを理由に訴えを退けた。

今回の判決により、政府の認定行政のあり方は昨年の大阪地裁判決以来、広島、名古屋、仙台、東京と、五つの判決で連続的に断罪されていく、機械的で冷酷な被爆者援護行政のあり方そのも



勝利判決をうけ喜びあう原告と支援者たち
(3月20日、仙台地裁前)

のである。

反核医師の会では、両判決に対し、「国は控訴するに「被害の実態に即した

審査・決定のあり方を抜本的に改めよ」などを要求する声明を発表した。

被爆の実態に合わずと、 国の原因確率論を断罪

名古屋地裁判決

一月三十一日の原爆症認定訴訟名古屋地裁判決日には、愛知の被爆者・支援者だけでなく広島・石川・京都や東海三県から被爆者・弁護士ら二百五十人が駆けつけて判決を見守った。



一部勝訴し名古屋地裁前で垂れ幕をかかげる支援者たち
(二月三十一日)

原因確率の機械的な適用は誤った結果に総合的判断を

名古屋地裁は総論部分で、大阪・広島地裁判決を引き継いで国が行っ

いまこそ全面解決を!

近畿原爆訴訟の 勝利をめざすつどいを開催

広島や長崎で被爆しながら国から原爆症認定を却下された被爆者が処分の取り消しを求め全国の地裁・高裁であらそわれている集団訴訟で、近畿の原告と支援者は三月十日、大阪内で裁判勝利をめざす集会を開催、二百十名が参加した。

この裁判は、全国十三地裁で闘われていますが、近畿では昨年五月、大阪地裁の原告九名全員の認定却下処分を取り消す画期的な判

決が出された。その後、広島地裁・名古屋地裁でも勝利している。

挨拶の中で藤原精吾弁護士団長は、国は原告のカルテ提出を求めるなど裁判引き伸ばしをしているが、与党・自民党の中からも原爆症認定を求める動きが出ていることを紹介した。

続いて、「被爆ピアノ・平和コンサート」を開催。広島で被爆したピアノをピアニストの辻本貴子さんが

てきた認定のあり方を批判、個別・具体的に認定にあたるべきだとして次のように述べた。

「被爆者ごとに被爆状況が違うことを無視して認定方針に原因確率論を機械的に適用すると、実態を反映せず発症との因果関係の判断を誤ることになる。そうならないために一人ひとりの被爆状況や被爆後の急性症状なども考慮して個別・具体的な事情を考慮しつつ、総合的に判断すべきである」

原告二人は原爆症と認め、二人を否認した判決の矛盾

各論となる四人の原告の判断については前述の総論の明快さが貫かれず、二人を原爆症と認め二人を認め

ずと、半々に分かれてしまった。兵士として広島の爆心地近くへ救援に投入され入市被爆した甲斐昭さんと、広島国民学校の校庭で被爆した小路妙子さんの二人は、国の認定却下を取り消し原爆症と認められたが、長崎の造船所で被爆した中村昭子さんと広島比治山の通信基地で被爆した森敏夫さんは、疾病放射線起因性が未解明だとして認められなかった。

この判断の分裂について、沢田昭二名大名誉教授は、当時、中村さんと森さんに発症した急性症状を無視して医学的知見にこだわったせいだと批判した。ただ、集団訴訟の前までは通らなかつた入市被爆者が認められたことは裁判の大きな成果だと述べた。

また、名古屋の原告と弁護士が連帯の挨拶をし、西晃弁護士が最後に裁判勝利を目指し今後の行動提起を行い確認された。

三月十日、大阪市内で開催された「勝利をめざすつどい」には二百十名が参加した。



平和問題」で活動をしている学生・若者がリレートークで行った。出席した原告は、「二度と被爆者をつくらないうで下さい」「核兵器のない人生を送らせてください」などと語った。

「ベートーベンのピアノソナタ・月光」「アメージンググレース」「原爆許すまじ」を演奏した。

原告の被爆者を激励する発言は、日頃から「反核・

二〇〇三年四月十七日の提訴から始まった原爆症認定集団訴訟が大きな山場を迎えている。二〇〇六年五月十二日大阪地裁、八月八日広島地裁、二〇〇七年二月十三日名古屋地裁で相次いで、国・厚生労働省の原爆症認定のあり方を断罪する判決が出された。しかし、厚生労働省は控訴断念を求め、被爆者たちに合おうとせず控訴した。現在二二二都道府県で二百二十九名が三高裁、十六地裁で裁判をたたかっている。しかも、仙台、東京地方裁判所の判決も迎える。しかし、三十一名の原告がすでにこの世を去っている。まさに「もう時間がない」たたか



「もう時間がない」たたか

原爆症認定集団訴訟の現状と今後の方向

向山 新 (反核医師の会常任世話人)

これまでの裁判を通じて厚生労働省は「最高裁判所が原爆症認定の要件である放射線起因性に関して、高度の蓋然性が必要である」という考え方を示している。原爆症認定の判断は、原子物理学、放射線学、疫学、病理学、臨床医学等の高度に専門的な知見に基づいて、厳格に判断されてきた。それにならなく、DS86による被曝線量及びそこから導き出される原因確率こそが高度な科学的知見であると主張し、それに基

づく「審査の方針」を堅持すると述べている。そのうえで、遠距離被爆者、入市被爆者は放射線による被曝はほとんどないと主張し、脱毛、下痢などの急性症状については栄養失調、強度のストレス、感染症などによっても発症する症状であり、放射線被曝が原因でなくとも生じうるものであるという主張を繰り返している。

広島地裁の判決ではDS86、原因確率について「DS86によって比較的正確に算出できるのはあくまで初期放射線量の限度であるかどうか」という明確な判断がなされている。

関係は是認し得る高度の蓋然性が認められるか否かを、法的観点から、検討することが必要であると考えられる。」(広島地裁判決文)と判断し、遠距離被爆者、入市被爆者についても原爆症の認定をしている。また名古屋判決では一部後退し、慢性的肝臓病、骨折、慢性肺炎等を原爆に起因すると認定するなどの、痛以外の疾患に大きく門戸を開くものとなつて

いることが特徴である。仙台、東京でもこれを踏襲した判決が出されることを期待したい。これに対し、三連敗した厚生労働省は、訴訟担当官を大幅に補強し、地裁判決を批判する意見書を提出し現在の認定制度の正当性の主張を繰り返している。また、東裁判で否定された「B・C型肝炎の放射線起因性は無い」とする見解を発表するなど、全面的に対決する姿勢を示している。このまま裁判を長引かせて、被爆者が死に絶えるのを待っているかのような態度である。

時効は信義違反

在外被爆者訴訟で最高裁判決

三月十一日に広島市で在ブラジル被爆者協会の森田隆会長、盆小原国彦事務局長を招いて最高裁勝訴報告集会が開催されました。

在外被爆者への健康管理 高裁に上告していません。手当の出国後の継続支給は 二月六日の最高裁判決では二〇〇二年の大阪高裁にお 上告を棄却。裁判長は以下ける郭貴勲さんへの判決での補正意見をのべています。実現しましたが、国側は地方自治法二百三十六条を根拠に五年以前のもは時 効として支払を拒否して最 法規の解釈に当たってもそ

の適用が排除されるものではない。住民が権利行使を長期間行わなかったことの主たる原因が、行政主体が権利行使をさまたげようとする違法な行動を積極的に執っていたことに見出される場合まで消滅時効を理由に請求権を争うことは地方自治法は想定していない。」

提訴から五年で最高裁判決まで到達するのは異例の早さだそうす。広島、長崎市の姿勢も糾弾されたわけですが、謝罪したのは長崎市のみです。今後は出国により手当

を不当に打ちきられた在在外被爆者を見つけて手当てをきちんと払うよう国に仕事をさせなければなりません。在ブラジル被爆者協会登録会員は二百三十五名ですが、うち六十名が死亡、四十名が転居先不明となり、現会員は百三十五名です。勝訴で過去の手当受給が可能となった方は三十一名いるそうです。現地からの健康管理手当申請は粘り強く取り組んであと数人のところまで到達しているそうです。

現在、広島地裁で七人の被爆者確認証所持者による現地からの原爆手帳申請をもとめる訴訟が継続しています。この勝訴と現地からの医療特別手当申請を認めさせること、医療費自己負担分をすべて支給させることが次の課題です。日本からの検診医師団派遣は今年もことわり、その費用を現地で自己負担援助に回してくれるよう求めていく方針です。みなさんのご支援をお願いします。

三月十五日、北陸電力は同社の志賀原発一号機で一九九九年六月十八日(二号機建設中)、定期点検中で停止中の原子炉で制御棒が

北陸電力が 臨境界事故隠し

石川、富山が抗議声明

抜け、臨境界事故が発生したが、国や地方自治体にも報告していなかったことを発表しました。この事故隠しに対し、核戦争を防止する石川医師の会(白崎良明代表世話人)では抗議声明を発表し、北陸電力へ送付した。抗議声明では、「このような重大な事故を隠し続けた背景には、「経済性を優先し、安全性を切り捨ててきた企業の姿勢がある」と指摘した。その上で、「核戦争による被害は治療不能であり、医療は実質的に

無効であるため、「最悪の疫病」であるというのが核戦争防止国際医師の会(IPNW)の基本理念」と表明。最後に国と北陸電力に対して、徹底した事故の原因究明とその情報公開を求めた。また、富山県保険協会と核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会の連名で「北陸電力の臨境界事故隠しに抗議し徹底した安全管理を要求する」と題した声明を発表し、関係方面へ送付した。